

「京北地域公共交通に関するアンケート調査」の結果について（報告資料）

京北地域では、地域の足として、また、朝夕の時間帯は小中学生のスクールバスとして「京北ふるさとバス」が運行していますが、利用者の減少や運転士不足の影響により、大変厳しい運営状況となっています。

そのような中、地域の移動サービスの利用実態やニーズを把握するため、下記のとおりアンケート調査を実施しましたので、その結果について御報告します。

記

1 アンケート調査結果（詳細資料3参照）

(1) 概要

- ア 実施期間 令和7年8月7日（木）～8月29日（金）
 イ 調査対象 京北地域在住の満18歳以上の方（約3,600人）
 ウ 回収件数 752件
 エ 結果周知 京都市公式サイト（京都市情報館）にて近日中に公表予定
 　※ 広報誌「京北きょうかん通信」12月号に記事掲載予定

(2) 主な内容

ア 現在の移動手段について（利用交通手段）

- 一番よく利用する交通手段は、『車（自分が運転）』が約81%で最も多く、京北地域の移動手段は車が中心となっている。
- 80代以上は自分で車の運転をされる方が少なくなり、『車（家族、知人が運転）』及び『京北ふるさとバス』の利用率が高まる。

イ 現在の移動手段について（車利用の理由）

- 『車（自分で運転）』を利用する主な理由としては、『目的地まで直接行きたい』が約64%で最も多く、次いで『バスの本数が少ない』が約44%であった。

ウ 京北ふるさとバスについて（「お昼の時間帯」の運行見直し策）

- 京北ふるさとバスの「お昼の時間帯」の運行見直し策としては、『フリー乗降区間の拡大（約44%）』、『予約制の乗合タクシーの運行（約43%）』の割合が高く、『予約制の乗合タクシーの運行』については、日頃から『地域公共交通』を利用する方も、約35%の方が選択された。
- 『フリー乗降区間の拡大』の回答率は、50代から80代は4割を超えており、自由度の高い乗降地設定が可能となる移動手段へのニーズが高くなつた。

エ 新たな移動手段について（デマンド交通の利用意向）

- 全体としては約28%が『利用する』と回答しており、『利用しない』は約18%、利用するか『分からない』は約52%であり、京北地域の人口の6割を占める60代以上で、『利用する』の回答割合が高くなつた。
- デマンド交通を『利用しない』又は利用するか『分からない』と回答した方の約75%が、その理由として『車など別の手段で移動できるから』を選んでいる。

オ 新たな移動手段について（運転者としての協力意向）

- ・ 自動車運転免許証所有者で、デマンド交通の運転者として『協力したい』と回答された方は117人（約18%）であった。
- ・ 中でも現役世代である20代～60代において、82の方から『協力したい』との回答があった。

カ その他のご意見（移動手段に関する困りごと、ご意見・ご要望など）

- ・ 家まで迎えに来てくれる予約制の乗合タクシー（デマンド交通）導入に関する要望や、車を運転できなくなった時の不安などへの意見が多数を占めた。
- ・ 一方で、既存の公共交通の維持・改善を求める声のほか、運賃や財政的支援に対する要望なども一定数ある。

1. 高齢者・免許返納後の移動への不安（182件）
2. デマンド交通等新たな移動手段への期待（166件）
3. 既存の公共交通等の維持・改善（78件）
4. 運賃や財政的支援等に対する意見・要望（49件）
5. 観光・地域活性化に必要な移動手段の確保（18件）
6. 子どもの送迎の負担軽減（8件）

2 今後の取組

今回のアンケートを通じて、将来の移動手段に不安を抱えている方が一定数おられること、また、デマンド交通等の導入に対する住民ニーズがあることを確認できしたことから、引き続き、住民の意見や要望を確認しながら、具体的な移動手段の検討を進めてまいります。